

1 単元名 「皆をひきつけるような新聞を作ろう」—情報を深めよう—

2 単元について

(1) 本単元で扱う主たる言語活動

新聞の仕組みを知り、見出しや記事の表現を工夫して新聞を作ること。・・・B 書くこと

(2) 単元観

本単元は、新聞の仕組みを知り、それをもとに同じ出来事を扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真の取り上げ方の工夫について気付いたりして、新聞に興味関心をもって読もうとすることをねらいとする学習である。さらに、実際の新聞から読み取った新聞の書き方や内容の工夫をもとに実際に新聞を書くという活動に繋がりたい。情報を発信する側の思いが、見出しやレイアウトに表れていることを知り、相手や目的に応じて、自分たちが伝えたい事柄を絵や図、写真などを用いて、効果的に表現していることに気付かせたい。

本単元では、「課題について調べたことや考えたことを伝える新聞を作る」という言語活動を通して、ここでは「読むこと」の「ウ 事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」また、「カ 見出しや記事の工夫を調べるために、複数の新聞を比べて読むこと。」を指導する。

そこで、一次では、本物の新聞を読むことで、新聞の良さやおもしろさを見つけ、「このような新聞を書きたい」という思いを児童にもたせたい。新聞の仕組みや見出しの工夫について教師が学習を進めていくのではなく、自分たちでこんな学習をしたいという願いをもって学習のゴールを決めたり、そのゴール達成のために必要な課題を考えたりして、見通しをもって自分たちで進めていく学習の場にしたい。また、ゴールの「新聞を書く」ために必要な課題を考えて進めていく第二次の学習では、「もっといい新聞を作りたい」という願いをもって進めることになり、意欲をもって課題に取り組むことになる。それは、児童が主体となって学習を進めていくことになる。第二次では、新聞に必要な内容や組み立てについて学習するとともに、見出しの効果や内容のおもしろさなど、読み手を引き付ける工夫について考えさせる学習にしたい。第二次で学習したことを生かし、第三次で伝えたい思いを大切にしたい新聞作りに繋がりたい。第二次の学習の充実が第三次を自力で解決することになると考えた。

なお、この単元は「読むこと」の単元である。「新聞を書こう」という言語活動を学習のゴールとすることで、新聞を読むことに必要な指導事項を、より主体的に学ぶだろうと考えた。また、見出しの効果を考える第二次の学習に「言葉と事実」の学習を入れることで、事実と言葉の関係に気付き、より効果的な見出しを作ると考えた。

(3) 本単元でつけさせたい力

- ① (新聞の特長を知る力)新聞の仕組みを知り、その内容の特長や効果に気付く力
- ② (見出しの効果を考える力)見出しの工夫を見つけ、その効果を考える力
- ③ (意見交流する力)話し合いを通して、自分の考えを広げたり、深めたりする力

(4) 評価 (A : 十分満足できる B : 概ね満足できる)

つけさせたい力	児童の表れ	
① 新聞の特長を知る力	A	・新聞の仕組みを知り、内容や構成についてその効果を考えて読んでいる。
	B	・新聞の仕組みを知り、新聞の読み方を知って読んでいる。
② 見出しの効果を考える力	A	・伝える人によって見出しの言葉が違うことを知り、見出しの効果について自分の考えをもっている。
	B	・伝える人によって見出しが違うことに気付いている。
③ 話し合いを通して、自分の考えを広げたり、深めたりする力	A	・自分と相手の考え方を比べながら聞き、相手の考えを自分の考えに取り入れながら、考えを広げ深めている。
	B	・自分の考えを伝えることができ、自分と相手の考え方を比べながら話し合いに参加している。

3 単元の目標

- 新聞の仕組みを知り、それをもとに同じ出来事を扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などの効果について考えたりすることができる。(読むこと)

4 単元の評価規準(6時間扱い)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 新聞の編集の仕方や記事の書き方に興味をもつとともに、見出しや記事の表現を工夫して新聞を書こうとしている。	○ 内容や構成、見出しや写真などの効果について考えながら記事を読んでいる。	○ 文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。

5 単元の指導計画(6時間扱い)

	学習内容と活動		指導上の留意点(○)と評価(◇)
一次 (1)	<p><単元の学習の見通しをつかむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気付いたことを話し合っ、学習のゴールを決めよう。 <p>《ゴールの例》</p> <p>「新聞を作ろう」</p> <p>《そのために学習すること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の仕組みを知る ・見出しの効果について考える ・新聞のおもしろさを見つける 	新聞にした内容を集める	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ゴールを見つけ、その課題に向かってどんな学習をしたらいいか、どのような力をつけたいか見通しをもっている。(関心・意欲・態度) ○ 新聞に興味もてるように、同じ内容の新聞を一人一人にもたせ、新聞の内容を共有できるようにする。 ○ 新聞を見て気付いた発見や疑問、感想などを出し合い、学習のゴールに思いや願いがもてるようにする。 ○ 自分たちで新聞の内容のおもしろさや仕組みに気付くようにすることで学習を主体的に取り組めるようにする。
二次 (3)	<p><ゴールのための課題解決></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞の仕組みを知ろう。 ・トップ記事 ・リード ・社説 ・見出し(大見出し、小見出し)など ○ 見出しの効果について考えよう(1) ・見出しを見比べたり、自分たちで見出しを考えたりすることで、見出しの効果やおもしろさに気付く。 ○ 見出しの効果について考えよう(2) ・「言葉と事実」から、見出しと事実の関係について考える。 ○ 新聞のおもしろさを見つけよう ・記事内容のおもしろさ ・引き付ける工夫 		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 伝えたいことをより分かりやすく伝えるための工夫を考えたり、話し合ったりしようとしている。(関心・意欲・態度) ○ これからの新聞作りに生かせるよう、新聞の見出しや記事には作り手の意図が表れていることを押さえる。 ○ いくつかの新聞を読み比べて、共通点や相違点を見つけるようにする。 ◇ 新聞を、見出しや記事の意図、効果について比べながら読むことができる。(読むこと) ○ 「言葉と事実」の教材を利用し、見出しには、事実に対して、書き手の意図があることに気付き、客観的に捉えられるようにする。
三次 (2)	<p><新聞を作る></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまで学習したことを生かして新聞を作ってみよう。 ・記事の内容を考える。 ・伝えたい思いに合う見出しを作る。 ・できた新聞を読みあう。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 第二次の学習を生かし、事実をどう伝えたいのか、事実と見出しの関係を考えるようにさせる。 ○ 考えをより分かりやすく伝えるために、数字を入れたり、表やグラフで表したりするなど、根拠を明確にもたせるようにする。

6 研究の視点 児童が主体となって学習を進めていくための指導課程の工夫

<視点①> 自ら学び課題を解決していくための指導過程の工夫①(導入の工夫)

- ・児童自ら「やってみよう」と思わせる導入の工夫
- ・学習のゴールとそのゴールへの課題を子供たち自身に考えさせることで、主体的に課題に取り組むことができるようにする。そのために、本物の新聞をもたせる。本物の新聞から、その仕組みやおもしろさ、魅力に気付かせ、「皆をひきつけるような新聞を作りたい」という意欲に繋げたい。また、それをゴールにすること

で興味を持続させ、主体的に課題に取り組むことができるようにする。

<視点②> 自ら学び課題を解決していくための指導過程の工夫②（第二次改善）

- ・ 第三次を自力で解決するための第二次の充実

第三次のゴールを、児童が自分たちの力で行えるように、第二次を改善する。教師が教えるのではなく、自分たちで内容のおもしろさや新聞の仕組み、見出しの効果に気付くようにする。そしてその第二次の学習が第三次の学習に活かされるようにしていく。また、見出しの効果や記事内容のおもしろさをより実感させ、実際にそれを意識して新聞を書く際の表現のヒントとするために、興味をもった記事を模造紙に切り貼りし、班や学級全体で共有する。

<視点③> 学習を広げ深めるための話し合いの工夫

- ・ 新聞を見ながら、新聞の良さや工夫を見つける活動の際には、児童同士の話し合いで考えを共有し、広げたい。さらに、少人数の話し合いでは、発見したことや疑問などを出させ、新聞に対する新しい見方を広げたり、自分の考えを聞いてもらって自信をもって考えを出したりする場にしたい。その際には、「つなぐ言葉」を活用したり「聞いて考えてつなげて話す」ができるように意識させたりして話し合いを活発にしたい。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- 新聞の形式や特徴に気づき、自分の考えが伝わる新聞を書くための学習の見通しをもつことができる。(読むこと)
- 考えを伝え合う話し合いを通して、自分の考えを広げることができる。(話すこと・聞くこと)

(2) 本時の展開 (1/6時間)

学習活動と主な内容	指導上の留意点 (○) と評価 (◇)
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>気付いたことを話し合い、学習のゴールを決めよう。</p> </div> <p>2 新聞を読んで、気付いたことやおもしろいと思ったこと、工夫していると思ったことなどをノートに書き出し、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しが大きく書かれているね。小さな見出しもあるね。 ・写真やグラフがあって、内容が分かりやすくなっているね。 ・生き物のことやクイズもあって、子供も楽しめるようにしている、誰にでも親しめるように工夫しているのかもしれない。 ・一面にあるのは、見出しも大きい。その日の一番見てほしい話題を載せているのかな ・色があると引き付けられるし、分かりやすいね。 <p>3 気付いたことなどを、学級全体で話し合う。</p> <p>① 新聞の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一面の記事が大きく書かれている。(トップ記事) ・意見が書いてあるところがある。(社説、コラム) ・大見出しと小見出しがある ・要約してある文がある。(リード) ・写真や図が載っていて、記事の内容が分かりやすくなっている。 <p>② 見出しの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しがおもしろい。 ・読み手の興味を引くような見出しになっている。 <p>③ 内容のおもしろさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な記事がある。 ・子どもから大人まで読めるような内容や工夫がある。 ・話題になっている出来事に関する情報がある。 <p>4 学習のゴールを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き方を工夫して本物のような新聞を作ろう。 <p>5 ゴールを達成するための学習計画を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の仕組みを知る ・興味を引くような見出しについて考える ・内容のおもしろさについて考える <p>6 本時のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読んで、新聞には読みやすくするための工夫や、読みたくなるような工夫があることが分かり、新聞を作りたくなった。みんなが読みたくなるような新聞を作るために、新聞の仕組みや見出しの工夫、読みたくなる工夫(おもしろさ)を学習していくことに決まった。 	<p>○ 学習のめあてとねらいを確認し、学習の流れとゴールがどこに向かうのかを伝える。</p> <p>○ おもしろいと思ったことや工夫しているなと思ったことは、理由も考えさせるようにし新聞のよさに気付くようにする。</p> <p>○ 全員同じ新聞を配布することで、情報や意見を共有しやすくする。</p> <p>○ 考えを広げるために、少人数で意見を交流した後、自分の考えをまとめるようにさせる。</p> <p>○ 考えをもてない児童には、以前自分が書いた新聞と比べて、共通するところや、自分の新聞にはないところがないかを考えるよう助言する。</p> <p>○ 意見を述べる際には、つなぐ言葉を意識して話すよう助言する。</p> <p>○ なかなか手が挙がらない児童に対しては、グループで話し合ったことでもよいことを伝え積極的に話し合いに参加できるようにする。</p> <p>○ 新聞には、読み手に分かりやすく伝えるための工夫がたくさんあることに気付かせるために、意見を分類しながら板書する。</p> <p>(1) 新聞の仕組み (2) 見出しの工夫 (3) 内容のおもしろさ</p> <p>◇ 新聞に対する発見や驚き、疑問などを意欲的に出し合い、考えを広げることができたか。(話すこと・聞くこと)</p> <p>○ どのような新聞にしていきたいか考えさせ今まで作ってきた新聞を上回るような新聞を作りたいという意欲をもたせる。</p> <p>◇ 新聞の形式や特徴に気づき、自分の考えが伝わる新聞を作るための学習の見通しをもつことができたか。(読むこと)</p> <p>○ 思いを効果的に伝えるための新聞を作るために、自分たちに必要な学習は何か、意見が分類された板書を参考にしながら考えさせることで、これからの見通しがもてるようにする。</p>

